

第2回「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会 摘録

1 日 時 平成20年10月30日（木）13時00分～15時00分

2 場 所 新・都ホテル 地下1階 「陽明殿」

3 出席者 別紙出席者名簿

4 議事次第及び内容

（1）開会

（2）議事

ア 京都のまちづくりの基本原則等について

イ 各検討部会の検討状況について

【検討部会長からの報告】

■公共交通ネットワーク検討部会

中川部会長：京都大学大学院工学研究科教授

- 「公共交通ネットワーク検討部会」については、事務局からの説明を聞かれて、公共交通の利便性を向上させることの必要性はご理解頂けたと思うが、では一体何をすれば良いのかと思われたのではないかなと思う。検討部会では、個別のバス系統名等をあげながら、すぐにでも実施すべき施策を具体的に議論しているところであり、本日の審議会でも具体的なご議論をお願いする。

■未来の公共交通まちづくり検討部会

中川部会長：京都大学大学院工学研究科教授

- 「未来の公共交通まちづくり検討部会」については、未来に向かって、データを把握しながら、しっかりとしたビジョンを明確にすることが求められており、少し議論のスピードは異なっているが、最終的には具体的な検討行っていく。未来の公共交通まちづくりについて、どうあるべきか審議会から宿題を沢山いただければ、具体的な議論もしやすくなると思うので、よろしく願いしたい。

■公共交通優先のライフスタイル検討部会

内藤部会長：京都大学名誉教授

- 「公共交通優先のライフスタイル検討部会」は、他の2つの検討部会が専門家を中心に「あるべき論」を議論するのとは異なって、市民の平均的な意見を代弁できる委員構成になっていると思う。当検討部会では、歩行者優先憲章の検討、そして市民の意見を吸い上げるための市民意識調査の検討がある。
- 総論として、みなさん脱クルマ、クルマ抑制には賛成であった。
- 今後は、審議会での議論や、公共交通ネットワーク検討部会での具体的施策の検討内容をなど踏まえながら、当検討部会の意見・要望を伝えていきたい。

(3) 意見交換

岩井委員：醍醐コミュニティバス市民の会会長代行

- 京都市の中で何が必要か、L R Tなのか I B Tなのか、どこに導入するかなど、具体的に軸を決めて検討する必要がある。路面電車は確かにいいと思う。
- 醍醐コミュニティバスを導入するにあたって、何度も議論し、一丸となってやってきたことが、現在の成果につながっていると思う。京都市の財政も苦しい中、財源の課題も含め、経済界や鉄道事業者など、様々な分野の人達の協力により、進めていくべきである。

藤田委員：株式会社京都リビング新聞社「リビング京都」編集長

- 「歩いて楽しいまち」とあるが、点としては歩いて楽しくても、点と点を繋ぐ線も楽しいかという視点が必要である。そのためには、例えば世界遺産を繋ぐ道を楽しむということも考えられる。
- 未来のまちづくりを考えていくにあたっては、子供達への教育も重要なのではないか。
- 昨日、国では高速道路通行料金を一律 1000 円にするとの報道があった。また、映画料金の割引策で観客が増えたという事例もあった。市民に「歩くまち・京都」の取組を知ってもらうためには、インパクトのある取組をする必要があると考える。毎月一回バスが 100 円で乗れる日を設けるといったような料金施策の検討も有効ではないか。

森本委員：京都工芸繊維大学教授

- 具体的な目標を、早く掲げることは大賛成であるが、3つの検討部会の連携を十分に図っていくことが必要である。
- 目標とするライフスタイルのあり方について、1日や1週間の生活を絵で描くと、イメージしやすいのではないか。

内藤副会長：京都大学名誉教授

- イメージ化については、よくやることだが難しい部分もある。3つの検討部会の結果を統合していく仕組みを工夫する必要がある。

谷口委員：立命館大学情報理工学部助教

- 「公共交通優先のライフスタイル部会」では、市民感覚のニーズの意見が多くあった中で、自転車の意見が多くあがっている。
- 「歩くまち・京都」の実現にあたっては、必要論とともに不要論も必要で、クルマの抑制策として、積極的にクルマを減らすため、如何にクルマを不便にするかという視点も必要ではないか。例えば、車道を狭め、自転車道を整備するということが考えられるのではないか。
- 料金面に関する施策について、自転車は、有料駐輪場と青空駐輪（放置）のどちらの費用がかかるかについて比較すると、撤去される確率を考慮しても圧倒的に放置の方が安い。これでは有料駐輪場を使う人がいなくて当然なので、自転車を放置した人に、それなりのコスト負担を求める方策が必要である。

内藤副会長：京都大学名誉教授

- 自転車については、都心部とその周辺と郊外部では、状況が異なる。自転車は重要であるが、どこでも利用促進すべきかという点、一概にそうは言えないことも考えられる。交通システム全体で考えていかななくてはならないと思う。

上田委員：京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長

- 桂坂において、京都市交通局と京阪京都交通が連携して、互いに毎時2本のダイヤを調整することにより15分間隔で運行した実績もある。また、安心して利用できるという視点から、女性等が夜道を長く歩かなくてもすむように、降車のみできる停留所を設けている。
- 京都への観光客は、近郊から来られる方と、遠方からJRを利用して来られる方の2つに大別できる。近郊から来られる方に対しては、各事業者からお客ニーズに応じて様々な企画きっぷが販売されている。一方、遠方から来られる方に対しては、京都駅で市バス1日乗車券(500円)を買われて、京都駅前で長蛇の列をつくってバスを待っている現状であり、問題と感じている。本日配布されたJR西日本さんが作成された「京都優遊マップ」で、鉄道ルートもあるという情報提供をし、観光客の分散につながると考えている。
- 現在、部会で検討されている1日乗車券については、早い時期に具体化されたら良いと思うが、JRも利用できる1日乗車券があると良いのではないかと。また、京都駅以外のJRの窓口でも、京都の情報が提供されていたり、1日乗車券が買えたりすると効果的である。また、JRのネットワークを活かし、東海や首都圏のお客様にもPRできるとよい。

大橋委員：西日本旅客鉄道株式会社執行取締役役員京都支社長

- 鉄道事業者の連携については、去年から大きな手応えを感じており、上田委員の意見に総論として賛成である。JRの特性を活かした役割を果たす観点から、可能なことについて取り組んでいきたい。
- 交通ICカードについて、普及が進んでいるところである。電子マネーとして、今後、発展のポテンシャルがあるので、交通分野に限らない特典付きのメリットなど、活用方法を検討していくと、利用者の利便性も向上するのではないかと。

大石委員：大石内科クリニック院長

- 観光シーズンの状況を考慮すると、季節限定の交通ルールも考えられるのではないかと。
- 京都市に昔走っていた路面電車を撤去した後の道路整備により、どのような状況になっているのか。車線が増えたことによって、自動車は増え、混雑も悪化したのではないかと。

事務局

- 観光シーズンには、嵐山や五条坂などで、地域限定の交通規制を実施しているところである。

大橋委員：西日本旅客鉄道株式会社執行取締役役員京都支社長

- 今年から、東福寺駅周辺においても、紅葉のシーズンのみの交通規制を導入いただいたところであり、関係各位に感謝したい。

三木委員：京都府警察本部交通部長

- 季節別の交通規制については、春・秋の観光シーズンや年末年始に実施しているところである。
- 路面電車の廃止により、西大路通りや東大路通りなどでは、1車線増えたが、違法駐車などの影響もあり、自動車交通量としてはさほど増えていないと思う。
- 路面電車が運行していた頃、夜間帯に自動車が電停に衝突する交通事故がよく発生していた。安全対策面でも検討が必要である。
- LRTやIBTについては、バスに代わるものとして導入するのか、観光地を結ぶものとして導入するのか、といった整理が必要である。

内藤副会長：京都大学名誉教授

- LRT等については、バスに代わる交通手段ではなく、クルマ（自家用車）に代わるべき交通手段であるというコンセプトであるところに意義がある。

吉田委員：国土交通省近畿運輸局企画観光部長

- 市内の各地域の交通手段分担率の資料が出されているが、もっと個別地域の課題についてデータを整理されることにより、客観的に課題が見えて来るとともに、市民の方にコンセンサスを得る際にも説得力があると思う。
- 利便性向上施策のように、交通事業者の相互協力の議論も重要ではあるが、自動車交通量のコントロールや駐車場計画などのまちづくりの議論も検討されてはどうか。

西植委員：国土交通省近畿地方整備局建政部長

- 市民にとって分かりやすい施策の打ち出しをしなければならない。交通事業者の連携と言われてもピンと来ないので、例えば「全てのバス・鉄道に定額で乗れる切符」といった打ち出しの方が分かりやすい。
- お得な切符について、たくさん種類があると、どれを使えば良いのか迷ってしまうので、これ一枚あれば充分という切符ができると良い。
- LRTの導入については、マイカー抑制策や公共交通利便性向上策やライフスタイルの転換とパッケージとして推進していかないと、うまくいかないのではないか。

村上委員：株式会社京都放送報道局アナウンス部長

- 先日京都市では「歩くまち・京都 地下鉄増収・増客対策チーム」というプロジェクトチームが発足したとのニュースがあり、私のラジオ番組でも取り上げ、リスナーの方からもご意見があった。この取組は、今後、戦略にどのように反映されるのか。

事務局

- 当プロジェクトは9月11日に発足し、現在、4つのグループに分かれて議論を始めたところである。まだまだ模索状態であり、提案がまとまれば、部会に報告してまいりたい。

上村委員（代理）：阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部長

- 自動車分担率20%以下を目指すところだが、最大の壁は、バスの利用率をいかにあげるかということだと考える。この目標の実現にあたって、地域別に目標設定して検討されることが良いのではないか。
- 洛西については、具体的な施策を提案いただいて、事業者が検討するという形で進めることができれば良いと思う。
- 自転車については駐輪スペースをどうするのが大きな問題である。自分で保有するのではなくシェアリングするという意識改革が有効だという視点から、駐輪場よりも安く使えるレンタサイクルを検討しているところであるが、公設民営型のレンタサイクルを、モデル的に京都で推進することを検討していただければ、大変有難い。

中川副会長：京都大学大学院工学研究科教授

- 地域別の目標値については、具体的な検討をする上で、視点としては当然必要であると考えている。

北富委員（代理）：京都商工会議所理事・産業振興部長

- 資料にある通り、都市と交通のビジョンを明確にすることは、大変重要であり、かつ必要と考える。京都市の経済が発展するためには、物流のクルマは必要であり、物流交通をどうするのかということについても検討頂きたい。

内藤副会長：京都大学名誉教授

- CO2排出削減の目標を踏まえると、環境に対する評価を念頭に、脱クルマ社会を構築するということは前提になっているような気がするが、環境だけでなく、北富委員の言われる経済（物流）や、さらには安全・安心や健康といった多様な評価軸をいかに満足していくかが課題である。

松村委員（代理）：京都府建設交通部交通対策課長

- 宇治で実施したモビリティ・マネジメントの取組では、しっかりとした情報提供とコミュニケーションを行った結果、通勤時間帯の定期外の利用者数が3割程度増加した。
- バスは、所要時間（到着時間）の情報が入手しにくいので、不安になって利用しにくいという面がある。府市協調の立場で、どのように連携していくことができるのか考えていきたい。
- 京丹後市で200円バスを運行したところ、運行前よりも利用が増え、収益が上がったという事例があるように、利用者に分かりやすいという視点は必要である。

西植委員：国土交通省近畿地方整備局建政部長

- 「歩いて楽しい」という意味では、歩行者や車椅子の視点に立った施策も必要であり、バリアフリーや景観を楽しむ場という施策も盛り込まれてはどうか。

中川副会長：京都大学大学院工学研究科教授

- 改めて具体的な検討を進めていきたいということを認識したとともに、交通事業者の委員より非常に積極的な意見を頂いて有難く思う。
- 自動車交通の抑制策の検討の必要性について、ご指摘いただいた。「未来の公共交通まちづくり検討部会」ではロードプライシングについて検討するが、施策の実現には市民のコンセンサスが不可欠である。
- 次回は、もっと具体的な報告ができるように頑張りたい。

(4) その他

- 次回の審議会の日程については、部会の検討状況ならびに北村会長の日程等を勘案の上、ご案内させていただきたい。

(5) 閉会（水田交通政策監）

- 本日は大変お忙しい中お集まり頂き、大変中身のあるご議論を賜りまして、誠にありがとうございました。
- 環境、健康、観光、経済活性化など、前回の審議会で門川市長がご挨拶させて頂いた内容が盛り込まれた本日のご議論、大変感謝しております。
- 門川市長は、パリ・京都姉妹都市50周年式典に出席し、現在パリのレンタサイクルや自転車の修理工場、バス停などを視察しているところである。新たな感覚をお土産に帰ってくると期待しているところである。
- 明後日から11月に入りますが、京都市の観光客の13.5%にあたる約670万人もの観光客の皆様には、まさにこの11月に京都を訪れて頂いております。我々事務局メンバーも、観光地の交通対策に取り組んでまいります。
- まだまだ課題が山積ですが、課題が多い程、闘志が沸くという、事務局の決意である。今後とも、この審議会の場に限らず、何かお気づきの点があれば、是非とも事務局までご意見を頂けましたら幸いです。本日は、誠にありがとうございました。

第2回「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会 出席者名簿

(敬称略)

(出席者)

副会長	内藤 正明	京都大学名誉教授
副会長	中川 大	京都大学大学院工学研究科教授
委 員	岩井 義男	醍醐コミュニティバス市民の会会長代行
"	上田 成之助	京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長
"	大石 まり子	大石内科クリニック院長
"	太田 昇	京都府総務部長
	(代理: 松村 憲次	京都府建設交通部交通対策課長)
"	大橋 幸之助	西日本旅客鉄道株式会社執行役員京都支社長
"	角 和夫	阪急電鉄株式会社代表取締役社長
	(代理: 上村 正美	阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部長)
"	谷口 忠大	立命館大学情報理工学部助教
"	西植 博	国土交通省近畿地方整備局建政部長
"	平井 義久	京都商工会議所 地域開発・都市整備委員長
	(代理: 北富 洋二	京都商工会議所 理事・産業振興部長)
"	藤田 晶子	株式会社京都リビング新聞社「リビング京都」編集長
"	三木 和幸	京都府警察本部交通部長
"	村上 祐子	株式会社京都放送報道局アナウンス部長
"	森本 一成	京都工芸繊維大学教授
"	吉田 晶子	国土交通省近畿運輸局企画観光部長
"	山崎 一樹	京都市副市長
"	葛西 宗久	京都市公営企業管理者(交通局長)

(事務局)

水田 雅博	交通政策監
里見 晋	都市計画局長
佐伯 康介	都市計画局歩くまち京都推進室長
黒田 芳秀	総合企画局地球温暖化対策室長
岡田 憲和	環境局環境企画部長
鶴谷 隆	文化市民局市民生活部長
永井 久美子	産業観光局観光部長
高木 博司	保健福祉局保健衛生推進室部長
二木 久雄	建設局土木管理部担当部長
佐伯 英和	建設局道路建設部担当部長
木村 繁	交通局企画総務部担当部長
	他